



ネコの足のつめは、何の役に立っているの

よじ登るとき役に立つ

ネコの足のつめは、すりへってしまわないよう、ふだんはだいに、足の毛皮の中にしまっています。つめの先が、するどくとがっていなければ、役に立たないからです。

ネコが、指に力を入れると、足の裏の筋が引っぱられて、つめが現れます。イヌに追いかけて、へいや木の幹をよじ登るときなど、足のつめがなければ登れません。

獲物を取りおさえる

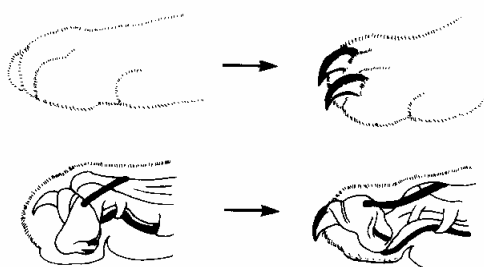
小鳥や、ネズミなどをおそうとき、ネコは、前足とつめで、いちげきを加えます。つかまえた獲物が、必死でにげ出そうとするのを、足やつめを使っておさえこみ、にがしません。ネコのいやがることをしようとする、おこったネコに、つめでひっかかれることもあります。こうげきにも、ネコのつめは使われます。

なわばりを表す印をつける

ネコを飼っていると、柱や家具に、ネコがつめとぎをして、傷をつけることがあります。このネコのつめとぎは、野生のネコだったころ、自分のなわばりを表すために、木の幹などに印をつけた習性が残っているのです。また、古いつめをはぎ落とし、下にある新しいつめを出すためにも、つめとぎをします。

(監修・今泉 忠明)

ネコの足の、つめが出る仕組み



ふつうは、つめはかくれている

指に力が入るとつめが出る

